

事業評価監視委員会からの意見に対する対応状況

※朱書き部分が加筆箇所

社会資本総合整備計画名称	該当箇所	意見要旨	対応状況
1. 鹿児島市における区画整理による安全・快適なまちづくり（第2期）	<p>事後評価シート P1</p> <p>「定量的指標の定義及び算定式」のうち「①施行区域内道路の整備計画区間における走行時間損失（評価時走行時間と整備後走行時間の差）の削減率を算出する。」</p>	<p>「評価時走行時間と整備後走行時間の差」の「評価時」という表現が、事後評価を行っている現時点（令和2年度）と勘違いされやすく、紛らわしいので、「整備前」とした方が分かりやすいのではないか。</p>	<p>「評価時」とは、定量的指標の当初現況値（H28当初）、中間目標値（H30末）及び最終目標値（R2末）を算出する時点での整備状況を各々表していることから、「整備前」と置き換えるのは適切ではないため、今のままの表現とする。なお、事後評価シートの「定量的指標の定義及び算定式」の備考欄に「評価時」及び「整備後」の補足説明を追記する。</p> <p><b>【①の補足説明】</b></p> <p>評価時：H28当初、H30末、R2末の各時点</p> <p>整備後：区域内全区間の整備完了時点</p>
	<p>事後評価シート P2</p> <p>「2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況」のうち「Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況」の欄</p>	<p>計画の目標が「活力のある社会の形成と安全で安心して暮らせる快適なまちづくりの推進を図る。」となっており、これは主観的なものである。速さなどの定量的指標で達成度を量ることは理解するが、それだけでいいのか。安全・安心・快適など、定性的なものを記載できないのか。</p>	<p>下記の文言を追記する。（参照：市政概要（小学校の児童数））</p> <p>本計画の目標である「活力ある社会の形成と安全で安心して暮らせる快適なまちづくり」を推進したことにより、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業施行区域を校区に含む小学校の児童数が増加した。</li> </ul> <p>〔郡山中央地区を校区に含む小学校の児童数は253人（H28.5.1）から258人（R2.5.1）に増加している。〕</p> <p>〔吉野地区外1地区を校区に含む小学校（2校）の児童数は1,632人（H28.5.1）から1,786人（R2.5.1）に増加している。〕</p> <p>〔谷山第二地区外2地区を校区に含む小学校（2校）の児童数は1,857人（H28.5.1）から2,008人（R2.5.1）に増加している。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道が新たに整備され、歩行者の安全性が確保された。</li> </ul>
2. 鹿児島市における人と環境にやさしい交通環境の充実による公共交通利用の促進	<p>事後評価シート P1</p> <p>「定量的指標の定義及び算定式」のうち「①坂之上駅利用者数」及び「②谷山地区の駅利用者数」</p>	<p>JR坂之上駅、谷山駅、慈眼寺駅の利用者数（日当たりの換算乗降客数）について、計画策定時に年度別推計値を算出し、これを基に最終目標値を設定しているが、推計値と目標値との関係が読み取れないので、推計値の算出方法も記載すべきではないか。</p>	<p>最終目標値の算定式がわかりにくい表現となっていることから備考欄に文言を追加する。</p> <p>（指標①） 目標値＝当初の乗降客数</p> <p>※過去5年の実績値から算出した推計値は減少傾向を示すが、事業実施により乗降客数の現状維持を目標とする</p> <p>（指標②） 目標値＝過去5年の実績値から算出した推計値＋アンケート調査による増加見込数</p> <p>（指標③） 目標値＝過去5年の最大駐輪台数</p>
	<p>事後評価シート P1</p> <p>「1. 交付金対象事業の進捗状況」のうち「A 基幹事業」</p>	<p>谷山地区アクセス環境整備事業は、計画策定時の全体事業費4億1,300万円に対し、実績額2億7,700万円となっており、材質等を見直したことで、コスト削減が図られたとのことだが、このことはプラス材料として事後評価シートに記載すべきではないか。</p>	<p>谷山地区アクセス環境整備事業は計画当初に比べコストが縮減されているが、国から示されている様式が指標に関する事業効果の発現状況や指標の達成状況、交付対象事業の整備に伴う定量的指標以外の効果の発現状況を評価するものとなっていることから、このままの記載とする。</p> <p><b>【参考】</b></p> <p>駅前広場の上屋は、計画段階において、アルミ造で一体型の製品を設置することとしていたが、工事着手前の実施設計時に、構造や安全性などについて、同等の鉄骨造とすることで工事費の削減を図った。</p>
	<p>事後評価シート P2</p> <p>「2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況」のうち「I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況」</p>	<p>まだ供用開始していないもの（永田川右岸の遊歩道整備：令和2年12月供用開始予定）もあるが、評価時期は適切なのか。</p> <p>また、評価を公表する際は、上記の整備も完了しているとのことだが、いつ時点で評価を行ったのか記載するのか。</p>	<p>計画期間が平成31年度（令和元年度）までであり、最終目標値も同年度となっていることから、評価時期は平成31年度としている。</p> <p>なお、評価時期を明確化するために文言を追加する。</p> <p><b>【前】</b>「谷山駅、慈眼寺駅への・・・」</p> <p><b>【後】</b>「評価時点（令和元年度）において、谷山駅、慈眼寺駅への・・・」</p>
<p>事後評価シート P2</p> <p>「2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況」のうち「II 定量的指標の達成状況」の欄中、「指標② 谷山地区の駅利用者数」</p>	<p>谷山地区の駅利用者は、同地区の人口比で見ると、平成27年度の12.71%から令和元年度の14.9%に増加している。指標には設定されていないが、計画の目標にある「公共交通機関への利用転換の促進」が図られているとも読み取れるので、このことも記載してもいいのではないか。</p>	<p><b>【前】</b>（谷山地区の人口はH27（62,222人）からH31（57,690人）で7.3%減少している。）</p> <p><b>【後】</b>（谷山地区の人口は62,222人（H27）から57,690人（H31）になり、7.3%減少しているものの、駅利用者数の割合は12.7%（H27）から14.9%（H31）へ増加している。）</p>	